

令和5年2月20日 発表

# 中小企業月次景況調査結果

## 令和5年1月分

～令和5年1月 データから見た業界の動き～

令和5年2月20日 発表

留まるところを知らない物価上昇に加え「賃上げ」が課題  
中小企業者の人材確保・定着のためには経営の安定化が必須



## 山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215 FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

## ～令和5年1月 データから見た業界の動き～

令和5年2月20日 発表

### 留まるところを知らない物価上昇に加え「賃上げ」が課題 中小企業者の人材確保・定着のためには経営の安定化が必須

#### ■ 概 況

1月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ▲6ポイント（前年同月比4ポイント↓）

収益状況 ▲8ポイント（前年同月比16ポイント↑）

景況感 ▲4ポイント（前年同月比10ポイント↑）となり、売上高は前年を下回ったが、収益状況・景況感は前年を上回った。

業種別で、製造業では…

売上高 +5ポイント（前年同月比15ポイント↑）

収益状況 ▲15ポイント（前年同月比5ポイント↑）

景況感 ▲10ポイント（前年同月比±0ポイント）となった。

売上高、収益状況のD.I値が前年同月の数値を上回った。木材・木製品製造や繊維・織物製品の一部では売上げの回復の声も聞かれた。しかし、業務用機械器具製造、電気機械部品加工などでは「半導体製造装置やロボット関連の受注量の減少が深刻」と需要の減少が報告されており、原材料価格などの相次ぐ値上げによる収益状況の悪化に加え、売上げ・仕事量の確保に苦慮する事業者の状況が伺えた。

非製造業では…

売上高 ▲13ポイント（前年同月比16ポイント↓）

収益状況 ▲3ポイント（前年同月比24ポイント↑）

景況感 ±0ポイント（前年同月比17ポイント↑）となった。

非製造業では収益状況、景況感D.I値が前年同月を上回ったが、売上高は前年を下回った。

全国旅行支援策や行動制限の解除により、「観光客の宿泊が増加している」と宿泊業界や関連する食品小売業では売上げの回復が見られる一方、商店街では「セールを開催しても客足が伸びない」、タクシー業界でも「人流の増加はあまり感じられず、タクシーの稼働台数は少ない」など、物価高の影響から消費活動は活発とはいかず、売上げ・仕事量の回復を感じることができないことが伺えた。

中央会では月次景況調査対象50社に対し、組合員や業界の今後の賃上げの動向について聞いたところ、41社（50社中の有効回答数）より回答を得た。賃上げを「実施する（予定である）」との回答は31.7%、「実施しない」は26.8%、「未定」が41.5%となり、賃上げに前向きな企業は全体の3割強、大半は慎重な姿勢が伺えた。

「実施する（予定である）」と回答のあった企業には対応の方法についても聞いたところ、「ベースUP」が92.3%、「一時金」が7.7%となった。

大手企業では既に2023年の賃上げを表明したところもあり、中小企業者が現在課題のトップとする人材の確保への影響が考えられる。

今回の調査では、「人材の確保・従業員のモチベーション維持のために賃上げを行う（木材・木製品製造業）」など、業界問わず多くの中小企業者が賃上げの必要性を痛切に感じていることが伺えたが、企業の間で取引される全てのモノの価格が上がり続ける中、「収益状況が好転しない限り賃上げには踏み切ることができない（運輸トラック業）」など、賃上げの元手となる資金の確保が難しく、先行きも不透明なことから賃上げに踏み切ることができないといった声が多く聞かれた。

また、賃上げを実施する（予定である）企業も売上や収益状況が好転している企業は少なく、厳しい経営環境の中でも人材の確保・定着のためには賃上げをせざるを得ない、現状の苦しい姿が浮かび上がる調査結果となった。

#### ■ 調査員からの国等への要望・コメント ピックアップ!

半導体の不足により大きな機械設備の導入には一年を超える期間を要する状況が続いていることから、補助金を活用した事業について、複数年の事業期間を設ける(認める)など柔軟な対応を要望する。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	コロナ規制緩和で経済活動が活性化してきている。業務用商品、ギフト関連商品ともに売上は堅調に推移しており、前年同月と比べ148%となった。
食料品 (洋菓子製造業)	店舗拡大及びテレビ放映効果により、前年同月と比べ売上は114%となった。
食料品 (パン・菓子製造業)	包材、原材料、光熱費が高騰し収益の確保が厳しい状況が続いているため、商品の販売価格の値上げを検討している。
繊維・同製品 (織物)	傘地部門▶前月から続いている注文を生産している状況。 インテリア部門▶受注量、織機の稼働状況ともに順調である。 裏地部門▶原材料(原糸)の納入が遅れており、2月以降の織機の稼働状況を懸念している。 ネクタイ部門▶例年に比べ受注量が少ない。原材料(生糸)の価格が高騰しているため、今後の相場の動向を注視している。
繊維・同製品 (織物)	東京で開催された織物・布地の展示即売会では、想定以上の売上げを確保することができた。行動制限が解除されたこともあり、今後はさらに人流が回復し経済活動が活発化することを期待している。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は92%増加しているが、人手不足が深刻で従業員一人ひとりの仕事量が大いことが課題である。
窯業・土石 (山砕石)	原材料、燃料、電力価格などの高騰分を製品価格に転嫁できておらず、前年同月と比べ売上▲2%、収益状況▲5%となった。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	売上、収益状況ともに昨年同月とほぼ変化がなかった。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	受注量の減少と原材料価格の高騰が続いており、前年同月と比べ売上▲10%、収益状況▲11%となった。今年も厳しい経営環境が続くことを予測している。
一般機器 (生産用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上は12%増加した。原材料価格の高騰分を製品価格に転嫁することができるよう取引先に要請しているが、1月の納品分への反映はごく僅かであった。受注量も減少しているため、今後も収益の確保が厳しい状況が続くことを予測している。
電気機器 (電気機械部品加工業)	年度末に向けて仕事量が増加しており、前年同月と比べ20%の売上増加、収益状況は25%好転した。
電気機器 (電気機械部品加工業)	半導体製造装置、ロボット関連の受注量の減少が深刻であり、前年同月と比べ売上▲20%、収益状況▲15%となった。見積もり案件数の減少から下請け同士の価格競争が激化しており、この状況がいつまで続くのか不安である。
宝飾 (研磨)	渡航規制が緩和されたことで展示会での売上増加を期待していたが、想定を下回る結果となった。

● 非製造業

<p>卸売 (自動車中古部品)</p>	<p>中古車部品の販売価格は高い水準を保っているが、新車納入の遅れによる廃車の発生台数が減少しており、前年同月と比べ売上げ▲40%、収益状況▲30%となった。2月以降の新車の納車遅れの改善に期待している。</p>
<p>卸売 (ジュエリー)</p>	<p>1月は円高傾向によりダイヤなど相場が下がっているものがあるが、世界的な品薄の影響で高品質な色石の入手が困難になっており価格が上昇している。 1月に開催した国際宝飾展では国内外から多くのバイヤーが来場し、取引状況はコロナ以前に戻りつつある。 組合員は賃上げの動きがあるが、ハローワークに求人を出しても正社員、パート共に問い合わせがなく業界全体で人手不足が深刻である。</p>
<p>小売 (青果)</p>	<p>厳しい寒さによりイチゴの出荷量が減少した。 燃料・電力価格の上昇分を販売価格に転嫁できず、前年同月と比べて収益状況▲4%となった。</p>
<p>小売 (食肉)</p>	<p>全国旅行支援の影響で宿泊施設の客足は増加しており、食肉の取り扱い量はコロナ以前に戻りつつある。一方、飲食店は個人の利用者が少なく売上げが伸び悩んでいる。</p>
<p>小売 (電気機械器具小売業)</p>	<p>前年同月と比べ売上げ▲13%、収益状況▲10%となった。しかし、電力などのインフラに係る価格の上昇により、今後は省エネ商品への買い替え需要が増加すると予測している。</p>
<p>小売 (事務機小売業)</p>	<p>役務的な仕事(施工業務やレイアウト変更)は増加しているが、消耗品の売上げが減少したことで、昨年同月と比べ売上げ▲25%となった。</p>
<p>小売 (ガソリン)</p>	<p>原油価格は81ドル～85ドル/バレルの間で推移している。為替も昨年の円安傾向を脱し、120円代後半で推移していることから原油の調達コストは低下しているが、国の補助金がなければレギュラーガソリンの価格は180円/ℓを超える状態である。</p>
<p>商店街</p>	<p>組合が管理する駐車場の売上げは12月と同様に回復傾向にあるが、コロナウイルス感染拡大や、物価上昇による消費活動の停滞により、各店の売上げの減少が深刻である。セールを開催しても客足が伸びず、前年同月と比べ売上げ▲30%、収益状況▲26%となった。</p>
<p>宿泊業</p>	<p>全国旅行支援策により観光客の宿泊が増加している。ビジネス客や工事関係者などの宿泊も多く、売上げは堅調である。</p>
<p>警備業</p>	<p>悪天候や工事関係者のコロナウイルス感染者数の増加によって予定されていた工事が中止または1週間以上の休工となり、前年同月と比べ売上げ▲15%、収益状況▲8%となった。2月以降、警備依頼が増加しているが、人手不足により受注することができない事業者が多い。</p>
<p>建設業 (総合)</p>	<p>1月の県内公共工事は、前年同月に比べ、件数で13%増加しており、請負金額は55%の増加となっている。1月末累計では件数で4%減少、請負金額でも7%それぞれ減少している。</p>
<p>建設業 (型枠)</p>	<p>コンクリートパネル等の原材料価格が高止まりしており、収益の確保が困難な状況が続いている。仕事量は減少しているが、職人の高齢化による退職者の増加により忙しさに変わりはない。人材を募集しても問い合わせはなく人手不足が深刻である。</p>

<p>建設業 (鉄構)</p>	<p>取引先に受注価格の適正化を要請しているが、原材料や副資材等の値上がりが続いており転嫁が追いつかない状況である。</p>
<p>設備工事 (電気工事)</p>	<p>仕事量は回復傾向にあるものの、原材料価格の高騰により収益の確保が難しい状況が続いている。</p>
<p>設備工事 (管設備)</p>	<p>原材料価格の高騰により収益の確保が難しい状況が続いており、次年度の見通しもままならない状態である。</p>
<p>運輸 (タクシー)</p>	<p>全国旅行支援や行動制限の解除による人流の増加はあまり感じられず、タクシーの稼働台数は少ない状況が続いている。</p>
<p>運輸 (トラック)</p>	<p>物価高騰を背景に組合員の中にはペースアップを検討している企業が多いが、収益状況が好転しない限り賃上げには踏み切ることができないと考える。</p>
<p>その他 (介護)</p>	<p>雇用人数は変わらないが労働時間が減少しており、前年同月と比べ売上げ▲2%となった。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2022/01	2022/12	2023/01	2022/1	2022/12	2023/01	2022/01	2022/12	2023/01
売上高	-10	-5	5	3	-7	-13	-2	-6	-6
収益状況	-20	-30	-15	-27	-7	-3	-24	-16	-8
景況感	-10	-25	-10	-17	0	0	-14	-10	-4

※( (良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

